常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年１０月８日(金)
その２

◇ 東京オリンピック 2020 を振り返る

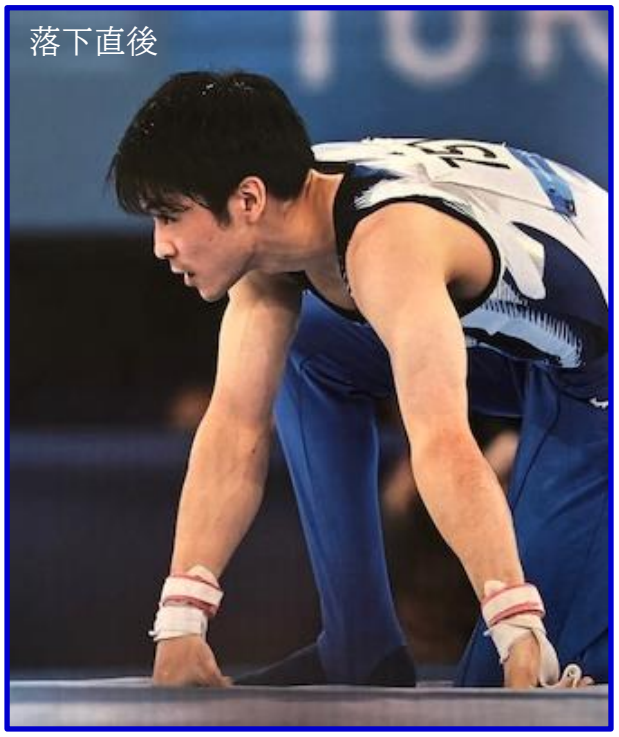
演技前･イメージトレーニングをする内村選手

「シュタルダーとび１回半ひねり片大逆手」東京五輪男子体操種目別鉄棒予選で、内村航平選手(32)が落下した「つなぎ技」である。

体操競技には技ごとに難度が設定されており、この技は【D 難度】。昔のウルトラ C よりも難度は高く、大変難しい技であるのは事実であるが、いわゆる「離れ技」と言われる一旦鉄棒から体を大きく離して技を実施し、さらに掴み直す落下の危険度の高い技と比較すれば、落下の危険が少ない技ともいえる。

離れ技カッシーナ
【成功】

落下直前には、
「ブレッドシュナイダー」：【H 難度】
「カッシーナ」　　：【G 難度】
「コールマン」　　：【E 難度】 と超高難度の離れ技を鮮やかにやってのけている。


落下直後

とはいうものの、この「つなぎ技」は、大車輪を行いながら体を１回半ひねる際に「ほんの一瞬」だけ両手がバーから離れる。そこでバランスを崩し、落下したのだ。

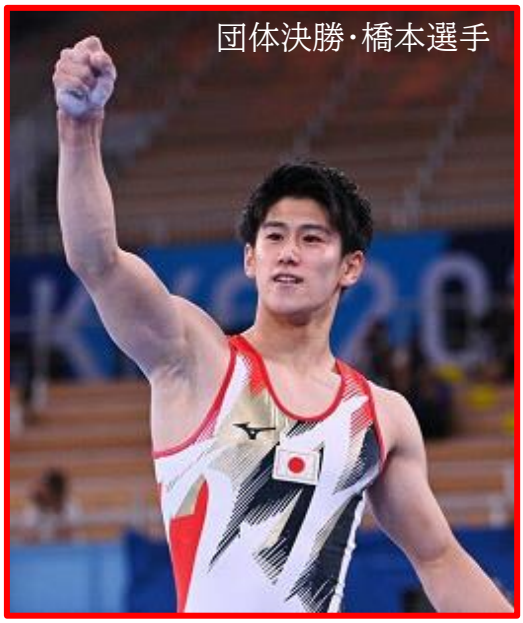
一瞬、「魔が差し」たような、「間が差し」たような…『魔差か』『間差か』『まさか』であった。　※注意　↑非常用の「当て字」

自分はライブ中継を見ていた。次々と離れ技を成功させた直後、中継アナウンサーの『心配なのは、直前の練習でミスのあった…』 と発した言葉に合わせたような落下だった。

内村選手は、以前から逆境に強い選手として知られており、そのことを周囲に納得させる実績も積み上げてきた。

19 歳で五輪初出場の【北京五輪 2008】では、個人総合決勝の「あん馬」種目で二度の落下をして 22 位まで順位を下げながら、猛烈な追い上げで銀メダルを獲得。
二度目の五輪、【2012 ロンドン五輪】では、個人総合予選 9 位から、決勝で完璧な演技を重ねて、初めての五輪個人総合金メダルを獲得。
【2016 リオデジャネイロ五輪】では、5 種目を終えて0.901差の 2 位も、最終種目の鉄棒で大逆転。本人いわく「これ以上ない最高の着地」で個人総合連覇を達成している。逆境に強く、逆境を力に変えてしまう本当の強さを見せつけてきた。

目に見えない落とし穴があったとすれば、大会後、内村選手に『メンタルバトル』と言わせしめた 3 か月間に 5 度にも及んだ予選会の「見えない疲労の蓄積」「精神的疲労の蓄積」であったことが「Number」の記事からうかがい取れた。



落下による大減点で演技得点が伸びず、内村選手の東京五輪の演技は予選で終了する。しかし、チームジャパンに帯同し続け、戦友を勇気づける。内村選手の胸中は推し量ることはできないが、彼自身にとってはこれまで以上の最大の逆境だったのではなかったかと、個人的には考える。

赤のユニフォームを着た 4 名の若手に交じり、一人青ユニで予選演技終了後に整列し、会場への挨拶で締めくくり、チームジャパンの精神的な大黒柱としての役割を全うしたのが上段の写真だ。

内村選手の落下から数日後、体操競技最終日。種目別鉄棒では、次代を担う若手のエース橋本大輝選手が、圧巻の演技で金メダルに輝く。

このとき橋本選手が着用していたのが、団体戦では着用していない内村選手が身に付けていた「青色ユニフォーム」。
青は個人・種目別専用色なのかもしれないが、自分には、橋本選手が内村選手の思いに応えるべく、そして感謝を伝えようと、敢えて青ユニを着用したようにさえ思えた。